第 48 回　自然観察会（あいち海上の森）実施報告

自然保護委員長　栗木洋明

令和元年　9 月 16 日（月祭日）第 48 回　自然観察会を、瀬戸市の「あいち海上の森」において実施。テーマは、昨年度に引き続き、「キノコの現地観察」とした。

あいち海上の森センターに 9 時に集合。参加者は 6 団体、28 名。開会式、木村修司先生の挨拶、記念写真撮影の後、さっそく海上の森の中へ。昨年度は台風接近による悪天候のため、研修室で講義形式での実施を余儀なくされたが、今年は申し分のない晴天に恵まれた。あまりの晴天続きで地面がカラカラに乾いており、キノコが顔を出しているか心配したが、すぐにその心配は吹き飛んだ。収穫したキノコが、あっという間に箱の中にいっぱいになり、車座になっての観察会。歩きながらでは聞き取りにくい話も、収穫したキノコを取り囲むように集まればよく聞こえる。午前中は山の斜面と沢沿いの道。センターに戻って昼食を済ませた後、午後は万博の記念モニュメント方面に出かけた。ついつい話が長くなり、歩き足りなかった人もあったとは思うが、キノコについてしっかり学ぶことができた。

一番おいしいキノコは ？ の質問に対して、先生は「シイタケ」と答えられた。なるほど生産量の多さから言っても納得できる。「マツタケ」は、香りは良いが味はさほどでもないそうだ。最後に先生が言われたことは、山の中で採集したキノコをむやみに食べるのは危険ということであった。食べられるキノコの中に、よく似た毒キノコが 1 本だけ混じっていても命にかかわる。あるいは、収穫したかごの中で毒キノコと触れ合ってしまうなど、危険が潜んでいるからだそうだ。先生いわく、今日一日の収穫だけでも 100 種類はくだらないとか。中には始めてみる珍品もあり、キノコの奥深さを感じることができた、有意義な観察会であった。

「キノコ」の世界って広くて、深くて、面白い！

岩倉山岳会　　松本美紀恵

気持ちのいい秋晴れの下、森の中へ進むとすぐに、色、大きさ、形の違う「キノコ」が、堂々と目立つように・・・、あるいはひっそり目立たないように・・・、自生しているその姿に少し笑ってしまいました。

木村修司先生からは、たくさんのことを教わりました。「キノコ」は、学術用語では子実体(しじつたい)と言う。日本で、名前がある「きのこ」は 1500 種類ぐらいだが、実際はその倍以上ある。顕微鏡や DNA で調べないとわからない「キノコ」も多い。などの説明に、「へぇ～」と思うことばかり。また、ユーモアのある説明でとてもわかりやすく、色の変化を観たり、嗅いだり、触れたりして、“4 感”で楽しむことができました。

私が印象に残った「キノコ」は、見た目はウミガメの卵、触ると“ぷよぷよ”しかも、菌糸も付いている。これは何・・・？　何・・・？　と、参加者と盛り上がる。答えは、“スッポンタケ”(幼体)。切って見せてくれたその断面が、半透明のゼリー状になっていて忘れられないほどのインパクトがありました。

他に、“ビョウタケ”は、小さくて、オレンジ色をした画鋲そのもの。“フリルイグチ”(通称)は、字が書けてとても面白かったです。そして、館内に展示されている“ツクツクボウシタケ”・・・。まさか幼虫に寄生して成長する「キノコ」があるなんて驚きの連続でした。本当に、「キノコ」の世界って広くて、深くて、謎も多い事を感じました。

今回参加して、里山の良さなど、知識以上に得るものがたくさんありました。少しだけ、「キノコ」の目を持ったような気持ちです。楽しい一日をありがとうございました。